



## ● 韓国ナザレ大学(KNU)と学生交流協定の調印式を行いました

本学と韓国ナザレ大学は、7月5日 火曜日に学生交流協定「国立大学法人筑波技術大学と韓国ナザレ大学との大学間交流協定に基づく学生交流に関する細目」を締結しました。調印式は、韓国ナザレ大学で行われ、本学からは、村上芳則学長と劉賢国総合デザイン学科教授が出席しました。

本学と韓国ナザレ大学は、2005年11月10日に大学間交流協定（包括協定）を締結しており、このたびの学生交流協定は、交換留学生の受入及び派遣を積極的に行うことを目的とするもので、今後は相互の学生交流が本格的に推進されることになり、両大学間の相互理解と親善がより深まるとともに、国際的な感覚とグローバルな視点を持つ学生を育成できるものと大いに期待されています。

### ● これまでのナザレ大学との大学間交流実績と動向

韓国ナザレ大学は、1954年に設立された総合大学で、世界各国181の大学と交流実績を持つ国際的な大学です。2011年現在、大学キャンパス5カ所、7学部、2大学院、6センター、3附属研究所で構成されています。教員数は650人（専任75人）、学生数は5,606人（大学院生305人）で、その内、障害者学生数371人（聴覚67人、視覚50人）の、韓国中部地方の中心的な大学です。2007年に設置されたキャラクターデザイン学部ユニバーサルデザイン学科は、在学生67人全員が聴覚障害者学生です。

本学は、2004年から韓国ナザレ大学と交流を開始し、現在までに、本学から合計18回、韓国ナザレ大学から合計15回、多くの学生及び教職員が相互訪問して大学間交流を行ってきました。当初は、関係教員の視察を中心としたプログラムで、親善と相互理解を図る目的で実施してきましたが、2009年からは、模擬授業や講習会、研究会などワークショップを中心とした教育研究活動を盛り込んだプログラムに方向を定め、学生参加型のプログラム「アカデミックワークショッププログラム」を展開しています。

昨年夏のプログラムは、「日本と韓国の手話比較」のテーマで、日韓両国の障害者学生によるワークショップと本学教員による模擬授業を行い、研究の方向性や専門知識の共有を深めることができました。また、同プログラムでは、本学と韓国ナザレ大学間の遠隔授業の実験をかねて本学にストーリー配信され、プログラムに直接参加できなかった学生、教職員も日本に居ながらにして、質問コーナーに



調印式でのイム・スンアン韓国ナザレ大学長と  
村上芳則筑波技術大学長

参加するなど、このプログラムの取組について理解と関心を深めることができました。

今夏も8月27日から約1週間、韓国ナザレ大学で「非常事態における視覚・聴覚障害者の情報発信とコミュニケーション」をテーマにアカデミックワークショップを実施しています。本学からは、産業技術学部学生5人と保健科学部学生3人、教職員11人が参加しました。

### ● 今後の学生交流計画

このたびの学生交流協定の締結を契機に、韓国ナザレ大学との相互の学生交流が拡大・推進されるため、今後、留学生の受入と派遣に係る教育環境の整備とシステムの構築が求められます。

本学では、現在、「留学生30万人計画」を踏まえつつ、「障害のある留学生受け入れ計画」（産業技術学部）を策定し、海外の協定校から障害のある学生を学部又は大学院に本格的に受け入れるための準備を行っています。同時に、在籍する留学生はもとより、今後受け入れる留学生を支援するため、平成22年度に留学生センター（仮称）設置準備室を設置して、様々な支援を行っています。

また、平成23年度に日本学生支援機構の留学生交流支援制度に本学の「留学生交流支援制度（ショートステイ）プログラム」及び「留学生交流支援制度（ショートビジット）プログラム」が採択されました。「ショートステイプログラム」は、本学への留学を希望している障害のある留学生

を事前に受け入れ、「国際教育短期受入プログラム」を学習・体験させ、後に本学学部学生及び大学院生等として円滑に入学するための体験的な予備教育を行うこと、あるいは長期留学へ繋げることを目的とするものであり、具体的には、「障害関係教育科目」、それぞれ関連の「専門科目」及び、「日本語・日本文化」、手話実習等を2週間学習・体験するものです。「ショートビジットプログラム」は、本学の学生が国際感覚と語学力の向上を図るとともに専門分野知識を深め、障害のある外国人学生はもとより、健常の外国人学生とも交流することにより、コミュニケーション能力を養うことを目的とするプログラムで、毎年、アメリカ、ヨー

ロッパ、韓国など海外の協定校を中心に派遣するものです。

このように、本学では、留学生の受け入れについて、学部学生、大学院生など正規課程への入学、特別聴講学生（交換留学生）としての入学、短期の体験入学まで、様々な留学生受入方法を整備してきました。また、本学学生の海外留学支援も行われています。

今後、韓国ナザレ大学との学生交流の拡大・進展はもとより、本学が大学間交流協定を締結している世界各国の大学との学生交流により、本学の教育研究活動の国際化が推進されるものと大いに期待されます。

(産業技術学部 劉 賢国)

## ● 韓国障害者雇用公団教職員が来学

7月25日月曜日から28日木曜日まで、大学間交流協定機関である韓国障害者雇用公団（KEAD）の教職員6名が、聴覚・視覚障害者の職業能力開発に関する研修のため来学されました。

前回は2007年11月に来学、今回は2回目となります。今回は、聴覚障害学生を指導している教職員の来学であるため、天久保地区の産業技術学部の授業参観及び障害者高等教育研究支援センターの施設及び情報保障機器の視察が中心となりました。最終日である28日の午前中は春日地区にて、保健科学部の授業参観及び障害者高等教育研究支援センターの点字教材・情報保障機器の視察を行いました。28日の午後には、本学における4日間の研修成果報告会が天久保地区の大会議室において開催され、公団から本学の学科編成やカリキュラムの変遷、情報保障、就職、補習体制等について質問があり、予定を30分超過する熱心な討論となりました。また、29日金曜日は東京都小平市の東



韓国障害者雇用公団（KEAD）と学長等の集合写真

京障害者職業能力開発校を見学し、無事帰国されました。

(国際交流委員会委員長 須藤 正彦)

## ● 就職活動における身だしなみと着こなし講座を実施

6月29日水曜日に、天久保キャンパス講堂において、全学就職委員会の主催による「就職活動における身だしなみと着こなし」の就職ガイダンスを実施しました。この講座は洋服の青山つくば店店長 佐藤氏を講師にお招きし行われ、両学部の学生43名が参加しました。

希望する職種ごとに最適なスーツの色や選び方のほか、第一印象を左右するスーツの着こなしのポイント、ネクタイの結び方やシャツの選び方など、就職活動における基本的な身だしなみに関することだけでなく、スーツのメンテナンス方法や靴などの小物の選び方、面接時の立ち姿勢やお辞儀の角度などの身のこなし、名刺の受け取り方まで、細やかでわかりやすい説明がありました。ネクタイの色によって相手に与える印象の違いは、これから就職活動を始



ガイダンスの様子

める学生や、初めて自分でスーツを選ぶ学生にとって、とても参考となるものでした。最後にはスーツポケットのフリップについての質問や、実際の面接で戸惑ったこと、クー

ルビズについての質問にもわかりやすく回答いただき、大変有意義なガイダンスとなりました。

(聴覚障害系支援課学生係 本間 陽也)

## ● アジア太平洋ろう者サッカー選手権大会で学生が活躍

### ● 大会の様子

5月16日月曜日から25日水曜日まで韓国の昌原で第2回アジア太平洋ろう者サッカー選手権大会が開催されました。本学から産業情報学科4年次の河野翔君、同じく1年次の吉野勇樹君、また卒業生の野呂啓さん(短大5期生)、細見尚史さん(短大11期生)、村田繁さん(短大14期生)、綿貫俊基さん(大学2期生)が日本代表として出場しました。

今大会で優勝を狙う日本は予選を1位で通過したものの、決勝トーナメントでは白星をあげることができず、4位で大会を終了しました。

### 予選リーグ

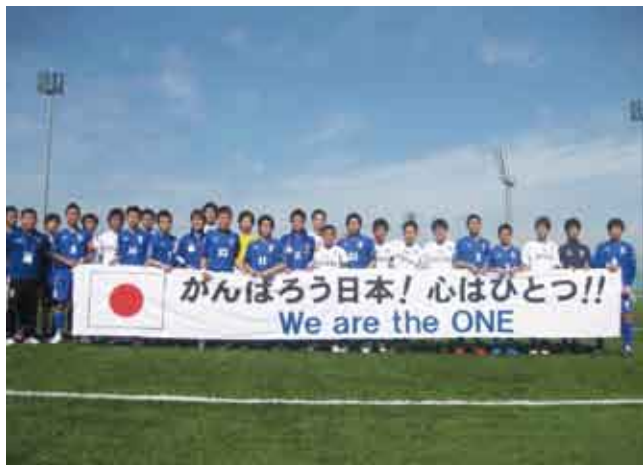
日本 0 - 0 (0 - 0, 0 - 0) イラク  
日本 4 - 0 (2 - 0, 2 - 0) ウズベキスタン  
日本 2 - 1 (1 - 0, 1 - 1) 韓国  
Aグループ1位で決勝トーナメントへ

### 準決勝

日本 2 - 3 (0 - 1, 2 - 1, 0 - 1, 0 - 0) タイ

### 3位決定戦

日本 0 - 2 (0 - 1, 0 - 1) 韓国



日本へのメッセージを掲げる日本代表チーム



左から、野呂さん、村田さん、河野君、細見さん、吉野君、綿貫さん

### ● 出場した学生のコメント

河野 翔(産業情報学科4年次:日本代表のエース。今大会4得点の活躍。)

「今大会は私自身にとって初めてのアジア大会でした。東日本大震災の事もあって選手、スタッフ皆が心をつなげて挑み、試合に出場する度に多くの人からのサポート、サッカーができる事に対する喜びを味わう事ができました。次は、来年のデフリンピックアジア予選に向けて日々前進して行きたいと思っています。応援ありがとうございました。」

吉野 勇樹(産業情報学科1年次:最年少18歳で初の日本代表入り。)

「今大会は初の国際大会でした。僕はウズベキスタン戦とタイ戦に途中出場しました。ウズベキスタン戦で1アシストしたのは大きな自信につながりました。今大会は東日本大震災のこともあったので、優勝を目指していましたが、誠に残念ながら4位という結果となってしまいました。応援していただいた皆様ありがとうございました。これからも日本ろうサッカーの進展のために頑張りますので、応援よろしくお願い致します。」

(障害者高等教育研究支援センター 中村 有紀)



## ● ブラインドサッカーで学生が活躍

### ● 第10回ブラインドサッカー日本選手権 B1 大会

5月21日 土曜日と22日 日曜日、第10回ブラインドサッカー日本選手権 B1大会が、福岡フットボールセンターにて開催され、日本全国8チームによる熱戦が繰り広げられました。初日の予選リーグは、4チームずつ2グループに分かれて総当たり戦で行われました。本学ブラインドサッカー部の「Avanzare」はJリーグ・アビスパ福岡の支援を受ける地元「ラッキーストライカーズ福岡」と同グループに属したものの、直接対決をスコアレスドローで終え見事予選一位通過を決めました。翌日の準決勝では日本代表を4人擁する「乃木坂ナイツ」を、エース田村友一さん（平成16年鍼灸学科卒業）によるハットトリックによる3-0で振り切り、決勝へと駒を進めました。決勝は優勝候補「たまハッサーズ」を劇的なゴールで破った福岡と再び相まみえることとなりました。福岡は地元の熱狂的なサポーターに後押しされるかのような勢いであり、「Avanzare」にとって日本選手権では4大会ぶりの失点となる先制点を奪われました。しかし、怪我を押して出場するエースの2ゴールで逆転し、4連覇達成となりました。

技大の卒業生が全国各地のチームに散らばって、敵同士として戦っているのが印象的でした。

### ● ブラインドサッカークラブ選手権プライムカップ

8月6日 土曜日と7日 日曜日、ブラインドサッカーク



ブラインドサッカー部集合写真

ラブ選手権プライムカップが、横浜みなとみらいスポーツパークにて開催されました。この大会は地域リーグ（毎年夏から冬にかけて全国4ブロックで開催）の王者によるブラインドサッカーのリーグ王者決定戦です。関東リーグ王者である「Avanzare」は決勝で宿敵「たまハッサーズ」と対戦しました。2点差をつけられ、怪我人が出て監督までピッチに立たなければならない状況になり、諦めムードが広がりました。しかし、終了間際になんとか追いつき、PK戦で辛くも振り切り優勝を果たしました。

（情報システム学科 福永 克己）

## ● イタリアでの視覚障害者コミュニケーションキャンプ参加報告

7月17日 日曜日から24日 日曜日にかけてイタリア・フェラーラで実施されたICCに、情報システム学科3年次の西田智英君が参加しました。本事業は国際交流事業の一環として実施されたものです。ICC：International Camp on Communication and Computersとは、大学間交流協定締結先であるリンツ大学i3s3のミーゼンベルガー准教授と、カールスルーエ大学視覚障害者サポートセンターのクラウス氏が主催する視覚障害学生のためのサマーキャンプ

です。17回目のキャンプである今年度、参加国は15ヶ国、学生総数は55名でした。

通訳や案内など存在しない英語漬けの毎日でしたが、西田君は積極的に他の参加者らとコミュニケーションを取って有意義に過ごしました。また引率した教員らは、プログラミングや書道のワークショップを担当しました。

（国際交流委員会委員 小林 真）



キャンプ参加者らの集合写真

## ● 天久保地区オープンキャンパスを開催

8月6日土曜日、天久保キャンパスにおいてオープンキャンパスが開催され、230名の方々に参加頂きました。午前中は、村上学長のあいさつの後、学部・学科についての説明と、入学試験の概要についての全体説明が行われました。午後からは産業情報学科、総合デザイン学科それぞれにおいて、入試解説、個別相談、体験授業、教育・研究施設や学生作品展示の見学等が行われました。また、障害者高等教育研究支援センターでは、教職課程の相談、数学学習相談等が行われました。参加頂いた教員向けに「進路指導教員情報交換会」も開催されました。

体験授業では、実際に産業技術学部の授業に参加し、大学で学ぶ専門技術教育や聴覚障害者のための教育方法について体感していただきました。

また、施設見学では、説明を担当する学生に熱心に質問する姿が見受けられました。

今後の産業技術学部説明会は、11月11日金曜日に天久保キャンパスにおいて授業見学会が開かれる予定です。



総合デザイン学科の体験授業  
「集合住宅をデザインしよう」の様子

(産業情報学科 皆川 洋喜)

## ● 春日地区オープンキャンパスを開催

7月30日土曜日及び8月21日日曜日に春日キャンパスにおいて、「夏のオープンキャンパス」を開催しました。

両日も午前は見学希望者に対し、附属図書館、支援機器室点字印刷室、体育館、プール及び寄宿舍等の施設見学を班別に分かれて実施しました。

午後からは、参加者全員が、大学会館講堂に集まり、小野副学長の挨拶の後、大越保健科学部長をはじめとする同学部役職者の紹介があり、次いで、学部長による大学全体の概要と保健科学部の教育内容について説明が行われました。

その後、希望する学科・専攻に分かれての詳細な説明や体験授業が行われました。体験授業においては、鍼灸学専攻では「実際の鍼やもぐさの使用による模擬治療」、理学療法学専攻では「患者さんへの歩行用の杖を使用するのりハビリ指導方法」、情報システム学科では「授業用パソコンを使用するの模擬講義や点図ディスプレイの使用方の説明」などが行われました。

また、体験授業終了後には、希望者に対して、学科・専攻ごとに教育相談も行われました。「在学生との質疑応答コーナー」では、参加者と在学生とが大学生活等についてなごやかに、そして熱心に語り合い、時間がたりないほど



情報システム学科の体験授業の様子

でした。

保健科学部では、10月28日金曜日にも「秋のオープンキャンパス」の開催を予定していますので、本学部の授業や学生生活等の様子をご覧いただき、志望大学選択に役立っていただければ幸いです。

(視覚障害系支援課 糸賀 克美)

# ● 本学の平成24年度入学試験日程

